

体力向上推進事業



DATA

- 主な連携先・メンバー
堺市教育委員会 学校教育部 生徒指導課 / 堺市立神石小学校 / 堺市立東陶器小学校 / 堺市立上神谷小学校 / 堺市立津久野小学校 / 堺市立津久野中学校
- 活動地域
大阪府堺市
- 活動期間
2013年度～継続中
- 活動資金
堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 1 堺市の児童生徒の体力向上を目的とした研究を行う
- 2 学部学生を体力向上サポーターとして派遣し、実践研究を実施、その効果を検証する



連携にいたる経緯

全国的に体力低下が小中学校の課題になっている中、2013年に堺市から児童生徒の体力向上のための研究と実践をしてほしいという依頼があった。そこで、単なる体力向上ではなく、それに伴う、子どもたちの業間での外遊びの推進や体育の授業の改善を通して、運動が好きになる状況をつくり、その効果を研究することとなった。

活動内容

児童生徒が主体的に運動に取り組む態度を養うために、研究校5校(小学校4校・中学校1校)を設定し、人間健康学部の学生を体力向上サポーターとして派遣し、実践研究を行った。また、体力向上検討委員会(各学校の校長と体育主任、教育委員会担当職員、指導助言者)を開催し、研究校における実践研究の効果検証を行った。

その他、教員を対象とした研究発表会や研修会を開催したり、児童の運動習慣の確立及び体力向上を図ることを目的に、堺キャンパス体育館で小学3・4年生を対象に堺スポーツランキング(縄跳び大会等)の交流大会を開催し、その中で、学部学生のサークル等が模範演技を披露する場を設けたりした。

活動の成果

- 1 本事業を通し、体力向上研究校では、休み時間におけるスポーツ教室の開催や体育の授業における指導支援の充実により、児童生徒が「できる」喜びを実感するなど、児童生徒の運動意欲促進につながった
- 2 「令和元年度 堺市児童・生徒体力・運動能力調査報告書」として成果をまとめた

今後の課題・目標

- 1 学生サポーターが休み時間の外遊びに関わっているが、外で遊ぶことが苦手な児童にどのようにして外遊びに興味をもたせるのかについての検討
- 2 児童生徒の生活習慣が大きく変化する中、体力向上研究校の取組だけでは、堺市の小中学校生全体の体力を向上させることが難しく、多くの学校において、地域と連携した取組が必要
- 3 学生サポーターと学校との時間調整の都合上、学生サポーターの派遣に限界があるため、教育委員会と大学が連携し、推進校に定期的に学生を配置できるようなシステムづくりが必要

教員紹介



■ 人間健康学部 教授

神谷 拓
Taku Kamiya

筑波大学大学院人間総合科学研究科を修了後、岐阜経済大学、宮城教育大学准教授を経て、2019年より現職。専門は体育科教育学・スポーツ教育学。日本体育科教育学会理事、日本部活動学会会長(2020年7月現在)。体育授業だけでなく、運動会(体育行事)や運動部活動まで視野に入れた、体育の教育課程・カリキュラム研究に従事。